19TH　IPPNW　WORLD CONGRESS 参加報告

橋本日実子

8月27日から30日までスイスのバーゼルで第19回IPPNW（核戦争防止国際医師会議）が開催され、世界各国から約800人が参加し、PANWからは過去最多の28人が参加しました。私はＩＰＰＮＷへの参加は２年前のインド大会に続き２回目の参加となりました。2010年5月にニューヨークで開催されたNPT再検討会議で新たな一歩を踏み出したこともあり、今回のIPPNWは2年前よりも核兵器廃絶に向けての熱が高まっており、核兵器廃絶に向けてどのように政府に働きかけるのが有効かというような、活動の方法に焦点をあてた分科会や講演が多かったのではないかと感じました。

今回一番印象に残ったのはやはりPANWから出したワークショップ“Nuclear Bomb Victims of the World”でした。被爆国である日本からの発表ということで、多くの人が集まり日本での原爆訴訟の話や、原爆での後遺症、あまり知られていませんがオーストラリアでの被爆体験など様々な視点から進められていきました。長いPANWの歴史の中初の試みということでしたが、本当に素晴らしいワークショップでした。

他にもLobbying for the Nuclear Weapons Convention、Umbrella or Bullseye、Learn about Nuclear Weaponsといったワークショップに参加しました。ワークショップを通じて、①政府とどのように核廃絶について対話をすすめていくか②日本がリーダーシップをとって北東アジア非核地帯を形成していく必要性③若いい世代にどのように平和教育を行うかという 3 つの課題がみえてきました。また余談ですが、どのワークショップも少人数制で一方的な講義形式ではなく、聴衆参加型の発表であったのが印象的で、日本の講義もこうあるべきではないかと考えました。

２年前のインド大会でも感じたことですが、やはり世界の人は日本人の核に対する考え方に注目しているらしく、日本人と話したい！という方から多く話しかけられました。学生以外では若い世代での参加は珍しく、いかに若い世代に核に興味を持ってもらえばいいか考えさられました。オーストラリアのIPPNWの会長のティルマン・ラフ氏が行っているＩＣＡＮ(International Campaign to Abolish Nuclear Weapon：核兵器廃絶国際キャンペーン）運動のなかで、you tubeを通して100万人が核保有国に核兵器廃絶を求めるMillionPleasキャンペーンがあり、インターネットという若い世代が興味をもちやすい媒体を通じての反核運動をPANWからも進めていければなと思いました。

２年後のIPPNWは広島で開催されます。広島大会では演題は無理でも何か発表できればなと考えています。また日本で開かれるのということなので多くの研修医や医学生に参加してもらいたいと思っています。戦争を体験した世代が少なくなってきている中、若い世代への平和教育をどのように行うべきか一緒に考えていきたいです。

最後になりましたが、参加にあたり、病院として暖かく送りだしていただいて本当に有難うございました。